

石狩湾新港中央水路地区耐震強化岸壁の供用開始について

石狩湾新港管理組合

石狩湾新港では、北海道の道央圏港湾の日本海側では初めてとなる耐震強化岸壁が、本年完成となります。

平成 25 年 6 月 29 日（土）には、石狩湾新港中央水路地区花畔 3 号岸壁において、町村信孝衆議院議員をはじめとした多くの関係者の方々のご出席を頂き、北海道開発局小樽開発建設部との共催で「石狩湾新港中央水路地区耐震強化岸壁供用式」を開催しました。



岸壁供用式の様子

耐震強化岸壁は、東日本大震災では緊急物資輸送の受け入れや被災地の生活再建等、地域の復興に不可欠な物流機能の維持に大きな役割を果たすことが改めて認識されたところです。

石狩湾新港は、人口が集積する北海道の政治・経済の中心である札幌圏に位置していることから、大規模地震が発災した際の海上からの緊急物資の輸送ルート確保が極めて重要です。

さらに、札幌圏の海上輸送拠点である石狩湾新港の物流機能が、長期に亘り停滞した場合、北海道全体にも大きな影響を及ぼす可能性があります。

このことから、札幌圏の広域防災拠点として、国土交通省北海道開発局により、耐震強化岸壁の整備を平成 18 年度から進めてきました。

[事業概要]

整備施設：岸壁(水深 10m、延長 170m)、泊地(水深 10m)
総事業費：約 39 億円

この耐震強化岸壁の整備により、本港が大規模地震等本道の社会経済の中心である札幌都市圏の広域防災拠点として、大規模地震災害等における被災後の迅速な輸送活動の再開に大きく貢献することが期待されます。

本港の背後圏には、約 151 万人(20km 圏内)もの人々が生活しています。石狩湾新港は、北海道の重要な都市機能の一つとして、「物流」という機能をしっかり

と担うことにより、本道経済に加えて、道民生活の安全・安心を、これからも支えてまいります。



中央水路地区耐震強化岸壁

中央水路地区耐震強化岸壁



石狩湾新港耐震強化岸壁と緊急輸送道路



石狩湾新港の背後圏と人口カバー率

札幌市・石狩市・小樽市の総人口：約 210 万人
1 時間圏でカバーされる人口約 43 万人 (21%)
2 時間圏でカバーされる人口約 151 万人 (72%)
※人口：各市の住民基本台帳 (H23.12.31 又は H24.1.1)